

# 愛の献血・三名に聞く

## 献血五十回

近藤 重鴻さん(金巻)



「近藤さんが献血を始められたきっかけは？  
「役場の農業関係の役員をしていたとき、献血車が役場前に来ていて、なんの気なしに検査をしてもらいました。ところが医師に血圧が非常に高いため、今回は遠慮してくれといわれ、ほ一病氣も見つけてくれるんだなど、感心するやら心配するやら。健康になったらもう一度来てみようと思いましたが」

「それはいつごろのことですか。もう、十数年前前でしょうか」  
「五十回の最多記録だそうです」

## みなさんの血液をもらって

本田 紀子さん(中学通り)



「三カ月児検診で、先天性心臓疾患と先生に言われ、一瞬目の前が真暗になってしまいました」

「生まれた当時は、手術を受けた後も、本人はそう苦しみを知らなかったようです。普通の子供となんら変わることもなく、元気にはしゃぎ回っていました。まさか心臓に穴があいているなんて想像もしていませんでした。先生の勧めもあって「就学前に手術をすれば、回復も早く学

## 献血のすべては「善意」の血液

医師

鈴木 昭さん  
(献血友の会副会長)

「人たを助けてあげたい」という温かい心があれば、だれでも血液を提供することが可能です。血液のおかげで病気を治してもらった人や、その家族のかたはもちろんです。今まで病気を



医学、医療技術の進歩で、かつては、手のほどでしょうかもなかった病気に對しても、治療や手術が可能になり、むずかしい手術で多くの人命が救われるようになりました。また、交通事故故による外傷の増大もあって、近年の血液の需要は、たいへん多くなっています。(昭和五十七年は、五十一年に比べ約二倍の見込み)。しかも人血に優る代用血液が開発されていない現在では、必要な血液はすべて「善意の人」からの献血に頼らなければなりません。

知らない健康な人も、家族のため、隣人のために献血にご協力願いたいと思います。  
黒埼町では献血友の会を組織して、献血業務の推進、PRに努めています。町内の事業所、



Rをすべきです。今後とも続けられる予定ですが、

「献血できる年齢の間は、続けたいと思います」  
「この必要性をみなさんに一言。」

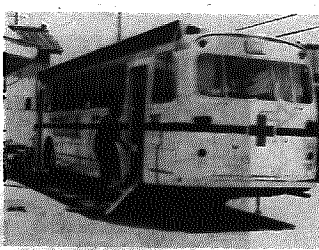
「あたりまえのことですが、人間は血液があつてこそ、生きていられるのです。その血液が他人の生命を助けるために利用される。温い善意に違いないのです。検査だけでもしてもらえば自分の健康状態がわかるし、一石二鳥なんです」  
近藤さんは、一昨年四十回目の「佩有功特別社員章」を受けておられます。

「紀子さんは、今、中学二年。元氣いっぱい、勉強に、クラブ活動に一生けん命。」「若い人から尊い血液を、紀子に提供していただき感謝にたえません。子どもにも常に話していますが、なんらかの形でこの恩を、お返ししたい。上の子も尊さをよく知って、ときどき、献血をしてきたよ」と言ってくれます。ほんとうにありがたく思っています」とお母さん。

本人の紀子さんは「小さな時のことはよく覚えていないけれど、元氣になったのは鮮血を私にくれた人たちのおかげです。献血をできる年齢になったら、少しでも皆さんの役にたたい」と、元氣に話してくれました。

高校、町民の皆様のご理解で、毎年目標量を超える好成绩をおさめていることは、たいへんありがたいことと感謝しています。今年度の目標は千二百本(黒埼町民が必要とする血液量と考えてよい)です。一人でも多くの人に入会していただき、助け合ひ、友情の輪を拡げていただくようお願いいたします。

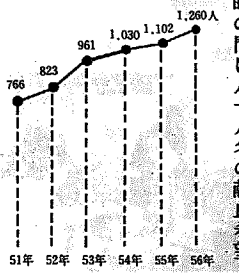
献血は無償の行為であるところにより深い意義がありますが、その尊い善意に報いるという意味で、今年から化学的検査のデーターを全員に知らせてくれることになりました。健康状態をチェックするのに、大きく役立つことと期待しています。健康であることに感謝し、病める人のために奉仕し、自分の健康管理のために、ぜひ献血場に足を運んでいただければ幸いです。



▲ゆうあい号

## 黒埼町の献血の状況は...

献血者数の動き(黒埼町)



みなさんは、献血の意義や方法をじゅうぶんに理解されたかと思えます。  
本町でも多くのかたが献血されています。詳しくは左のグラフをご覧ください。昭和五十六年度は千二百六十人のかたが献血されました。  
今年度に入りまして、四月二十六日(月)に第一回目が中央公民館で行われ、九時半から三時の間に八十八名の献血希望

者が来られ、七十六名が献血されました。この中には本町はもとより、新潟市や白根市のかたもおります。おそろく何かの用事で本町に来られ、通りがかった人なのだと思いますが、とても喜ばしいことです。献血はどこでもできます。黒埼町だけでなく「ゆうあい号」を見かけたらぜひ献血を。  
また、本町には十年ほど前から献血友の会が組織されており、町内の事業所や各地区の献血者から多大な協力を得ております。ほぼ、毎月一回の割合(昨年は十五回)で「ゆうあい号」が来町し献血を行っています。本年九月までのスケジュールは左記のとおりです。  
七月二十二日(木)総合体育館  
八月十五日(金)会場は未定  
九月七日(火)役場前(予定)  
※そのつど、広報くろさきでお知らせします。

なお、残念ながら新潟県全体では血液は足りません。昭和五十六年四月から五十七年二月まで、十三万六千本の献血がありました。年間およそ六千本が不足し、他県から移入しています。血液が自給できないわけです。このことから、よりいっそうみなさんの協力が必要不可欠です。

## 私の視点

町長

## 浅妻 法一郎

いよいよ明年は町制施行満十年である。黒埼町も変わり、新幹線、高速道路が完成した世の中は情報化、宇宙時代である。また巷(ちまた)は良い時代なのか、悪い時代なのか、不透明とか不確実ということばが交わされている。これは一体どういうことになっているのか、疑問を持つのは私一人ではないでしょう。疑問。これは原因の追求であり、原因があつて結果が生ずるのであると思う。

どんなに世の中が進化しても、原理原則は変わらないよ。ここに教育という人間社会が生まれてくる。頭がよいか悪いかは、人それぞれ個性、特質をもっているからであろう。その個性、特質を生かすのが教育の本質ではないだろうか。  
教える人も、教わる人も人間である。教える人は教わる人の身になって、教わる人は教える人の身になれば、校内暴力などは生じないであろう。

